

河川護岸・道路擁壁兼用大型ブロック

山河 施工要領

株式会社 総合開発

H25.1.15 作成

II. 施工手順

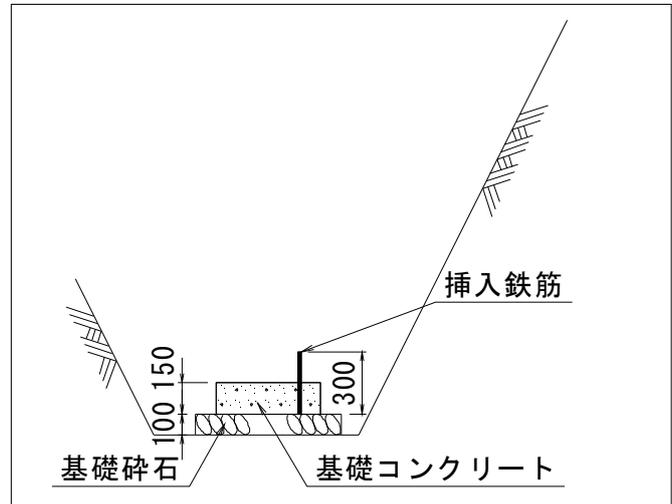
1. 練積

① 掘削・整地

- ・設計図書に示されている高さまで掘削をし、整地を行う。

② 基礎工

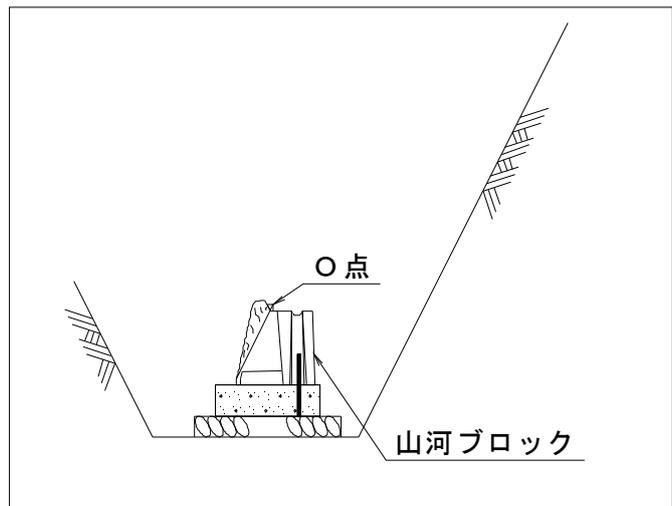
- ・設計図書に示されている敷き幅に基礎碎石を撒きだし転圧する。
- ・型枠を設置する。
- ・コンクリートを打設し、挿入鉄筋を設置する。
- ・挿入鉄筋はD16・L=300mmの鉄筋を1,250mm間隔で設置する。
(安定計算により変更する場合がある)



③ ブロック据付 (1段目)

- ・O点に水系を張る。
- ・敷きモルタルを敷き均す。
- ・専用吊具を使用しブロックを吊込みO点の水系を基準に設置する。

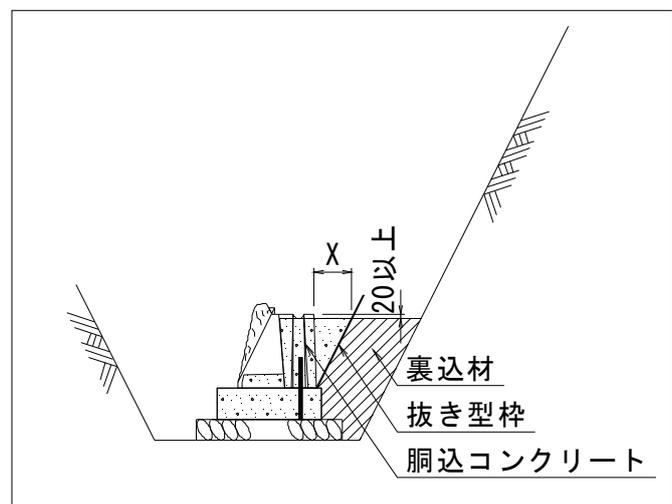
- ・配列は施工要領Ⅰ.により据付を行う。



④ 胴込・裏込コンクリート打設

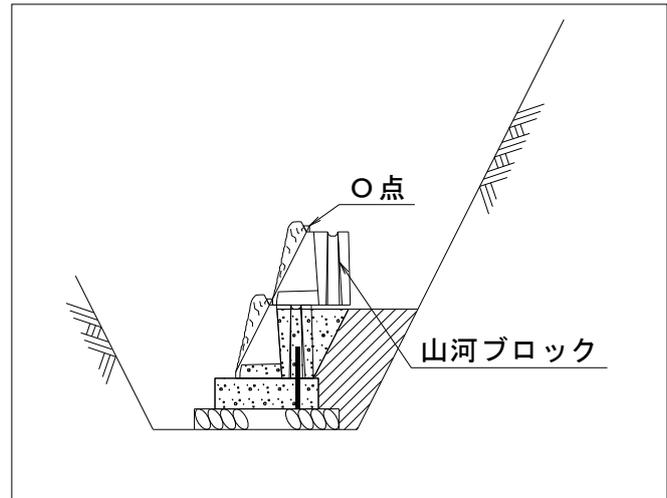
- ・設計図書に示す裏込コンクリート厚に抜き型枠を設置する。
- ・設置位置は施工要領Ⅲ.に示すX寸法参照。
- ・裏込材を投入する。
- ・コンクリートを製品控柱上部より20mm以上下げた面までバイブレーターで締固めながら打設する。

- ・(コンクリート打設時ブロック移動に注意する)



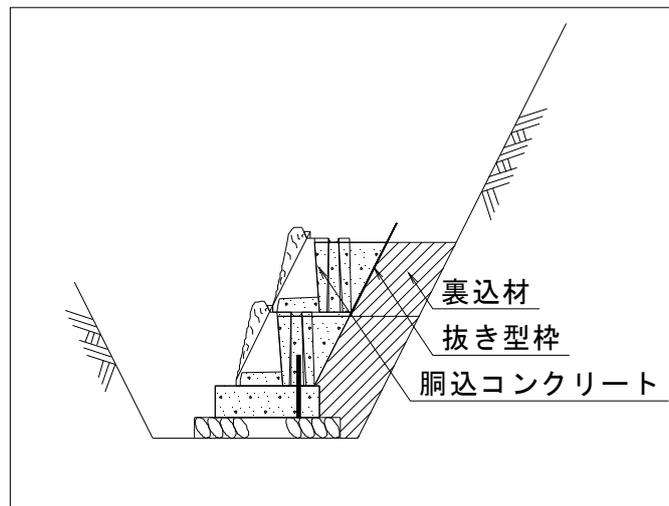
⑤ ブロック設置 (2段目)

- ・ O点に水糸を張る。
- ・ 専用吊具を使用しブロックを吊込みO点の水糸を基準に設置する。
- ・ 配列は施工要領 I .により据付を行う。



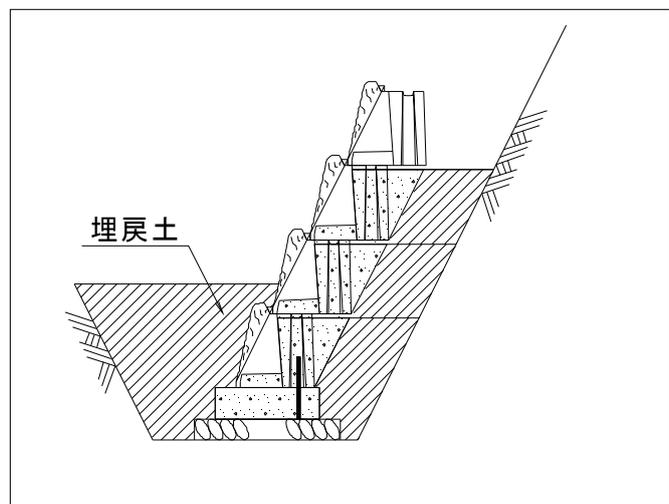
⑥ 胴込・裏込コンクリート打設

- ・ 設計図書に示す裏込コンクリート厚に抜き型枠を設置する。
- ・ 設置位置は施工要領Ⅲ.に示すX寸法参照。
- ・ 裏込材を投入する。
- ・ コンクリートを製品控柱上部より 20m m以上下げた面までバイブレーターで締めながら打設する。



⑦ 前面埋め戻し

- ・ 施工壁高が計画高を超えた時点で、壁前面埋め戻しを行う。
- ・ ⑤⑥工程を繰り返し、所定の高さまで施工を行う。



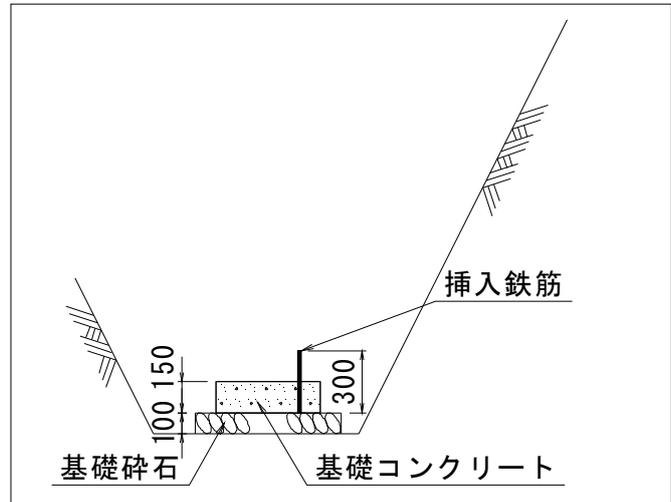
2. 空積

① 掘削・整地

- ・設計図書に示されている高さまで掘削をし、整地を行う。

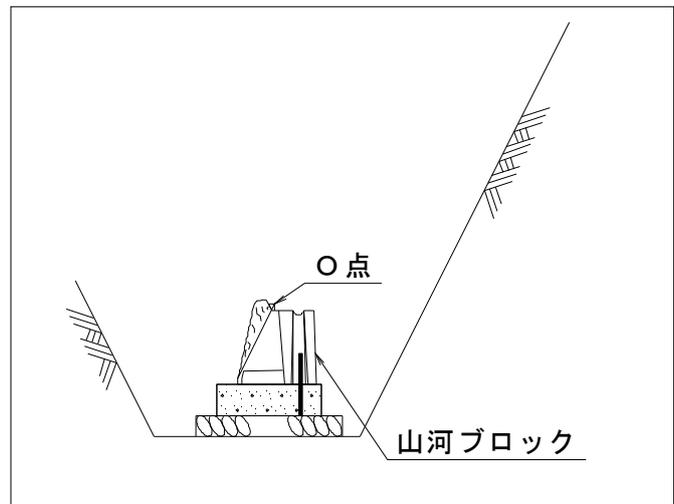
② 基礎工

- ・設計図書に示されている敷き幅に基礎碎石を撒きだし転圧する。
- ・型枠を設置する。
- ・コンクリートを打設し、挿入鉄筋を設置する。
- ・挿入鉄筋はD16・L=300mmの鉄筋を1,250mm間隔で設置する。
(安定計算により変更する場合がある)



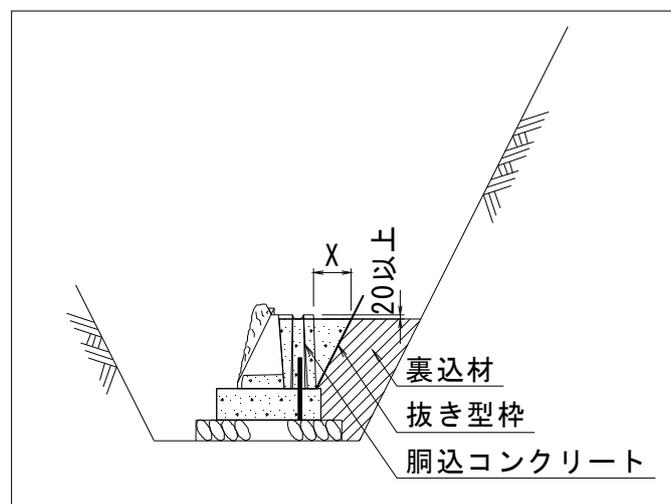
③ ブロック据付 (1 段目)

- ・O点に水系を張る。
- ・敷きモルタルを敷き均す。
- ・専用吊具を使用しブロックを吊込みO点の水系を基準に設置する。
- ・配列は施工要領Ⅰ.により据付を行う。



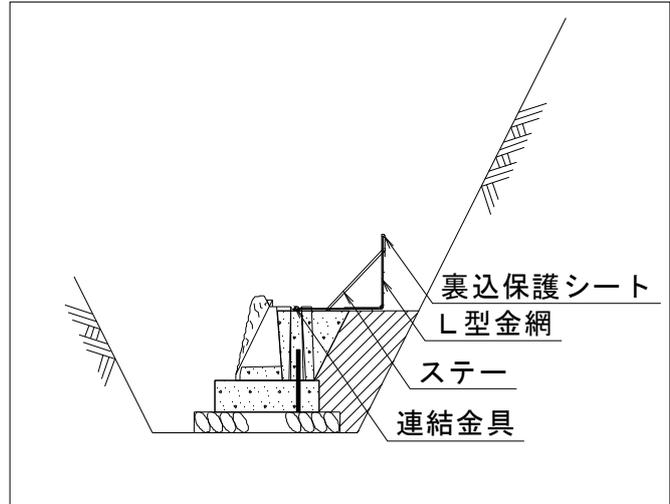
④ 胴込・裏込コンクリート打設

- ・設計図書に示す裏込コンクリート厚に抜き型枠を設置する。
- ・設置位置は施工要領Ⅲ.に示すX寸法参照。
- ・裏込材を投入する。
- ・コンクリートを製品控柱上部より20mm以上下げた面までバイブレーターで締固めながら打設する。
(コンクリート打設時ブロック移動に注意する)



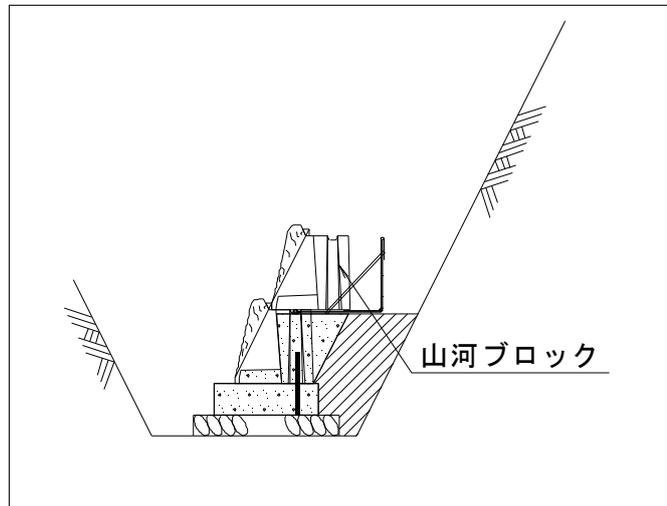
⑤ 金網組立

- ・ブロック上部まで裏込材を敷き均す。
- ・L型金網をブロックに連結金具で固定する (M12 ボルト)
- ・裏込保護シートをL型金網背面に 10 c m程度折り返し、結束線等で固定する。
- ・ステー取付部をカッターで 5 c m程度切り込みを入れる。
- ・ステーをL型金網背面から挿入し金網底部に掛ける。



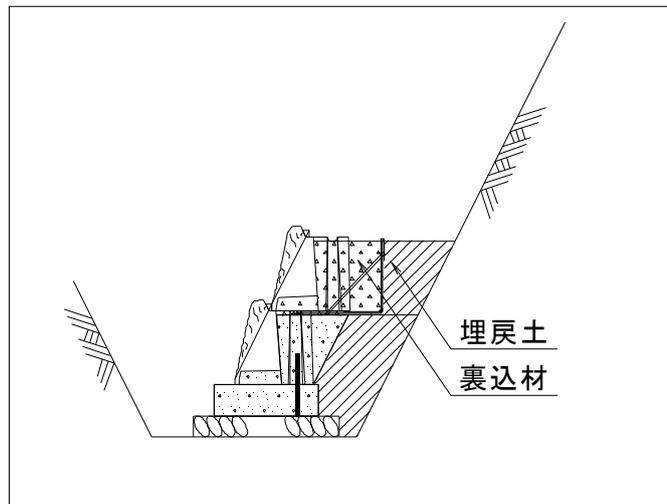
⑥ ブロック据付 (2 段目)

- ・O点に水糸を張る。
- ・専用吊具を使用しブロックを吊込みO点の水糸を基準に設置する。
- ・配列は施工要領 I .により据付を行う。



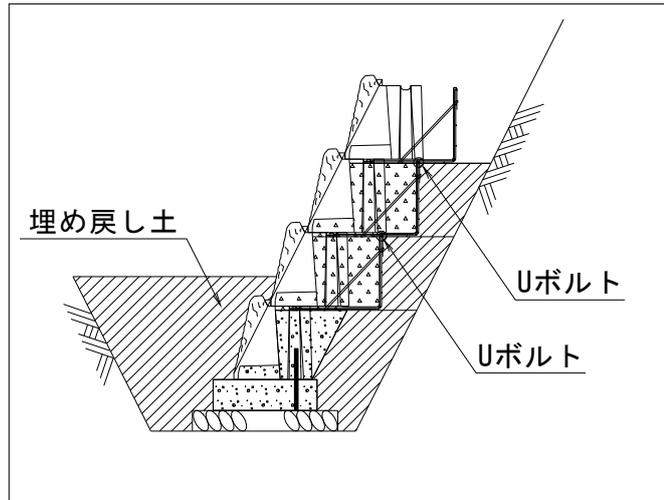
⑦ 裏込材・埋戻土

- ・裏込材を投入する。
- ・使用材料 (設計図書による)
 - 単粒砕石 (転圧無し)
 - 割栗石 (転圧無し、上部 5 c m単粒砕石使用)
 - クツラシャーラン、ランマ等で転圧
- ・埋戻土を投入し、2層転圧を行う。

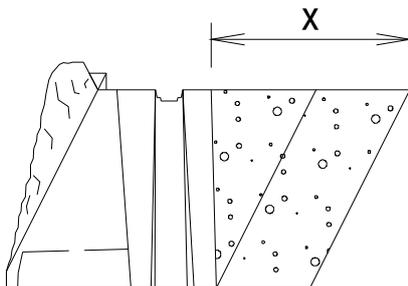


⑧ 前面埋め戻し

- ・施工壁高が計画高を超えた時点で、壁前面埋め戻しを行う。
- ・⑤⑥⑦工程を繰り返し、所定の高さまで施工を行う。
- ・空積 2 段目以降は上下金網をUボルトにより 1.25mピッチで連結を行う。



Ⅲ. 抜き型枠設置寸法



裏コン厚 (cm)	型枠上端部 水平長さ x (cm)			
	1 : 0.3	1 : 0.4	1 : 0.5	1 : 0.6
0	18	18	19	20
5	23	24	24	25
10	28	29	30	31
15	33	34	36	37
20	38	40	41	43
25	44	45	47	49
30	49	50	52	55
35	54	56	58	60
40	59	61	64	66
45	65	67	69	72
50	70	72	75	78
55	75	77	80	84
60	80	83	86	90
65	85	88	92	95
70	91	94	97	101
75	96	99	103	107
80	101	104	108	113
85	106	110	114	119
90	112	115	119	125
95	117	120	125	130
100	122	126	131	136
105	127	131	136	142
110	132	137	142	148
115	138	142	147	154
120	143	147	153	160

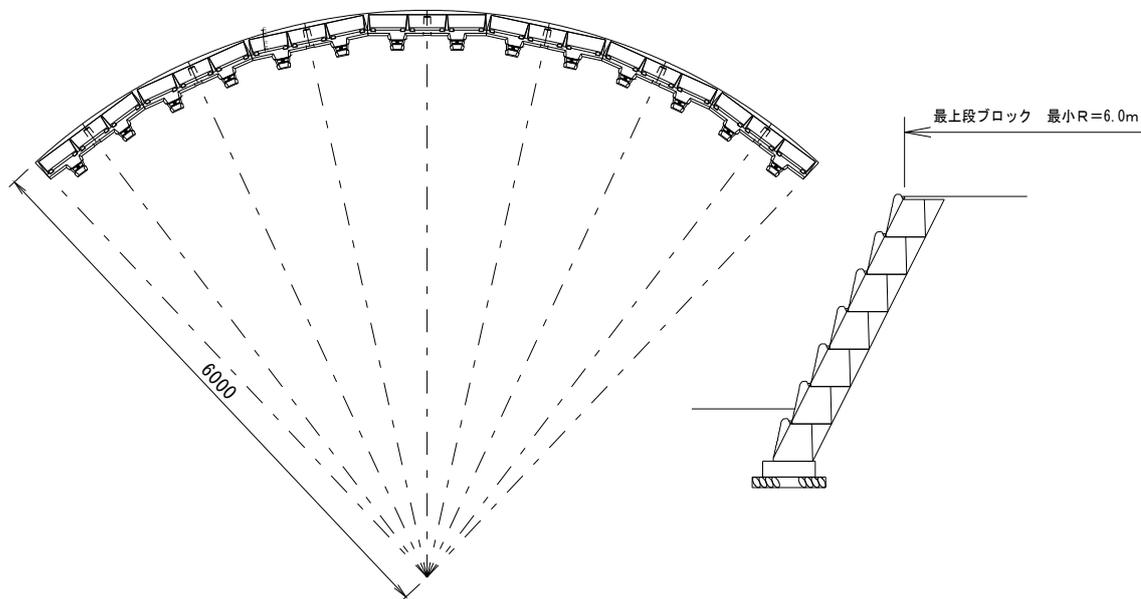
IV. 曲線対応

曲線対応は、ブロック上下の拘束が無いことから各段、目地間隔なしで施工することができます。

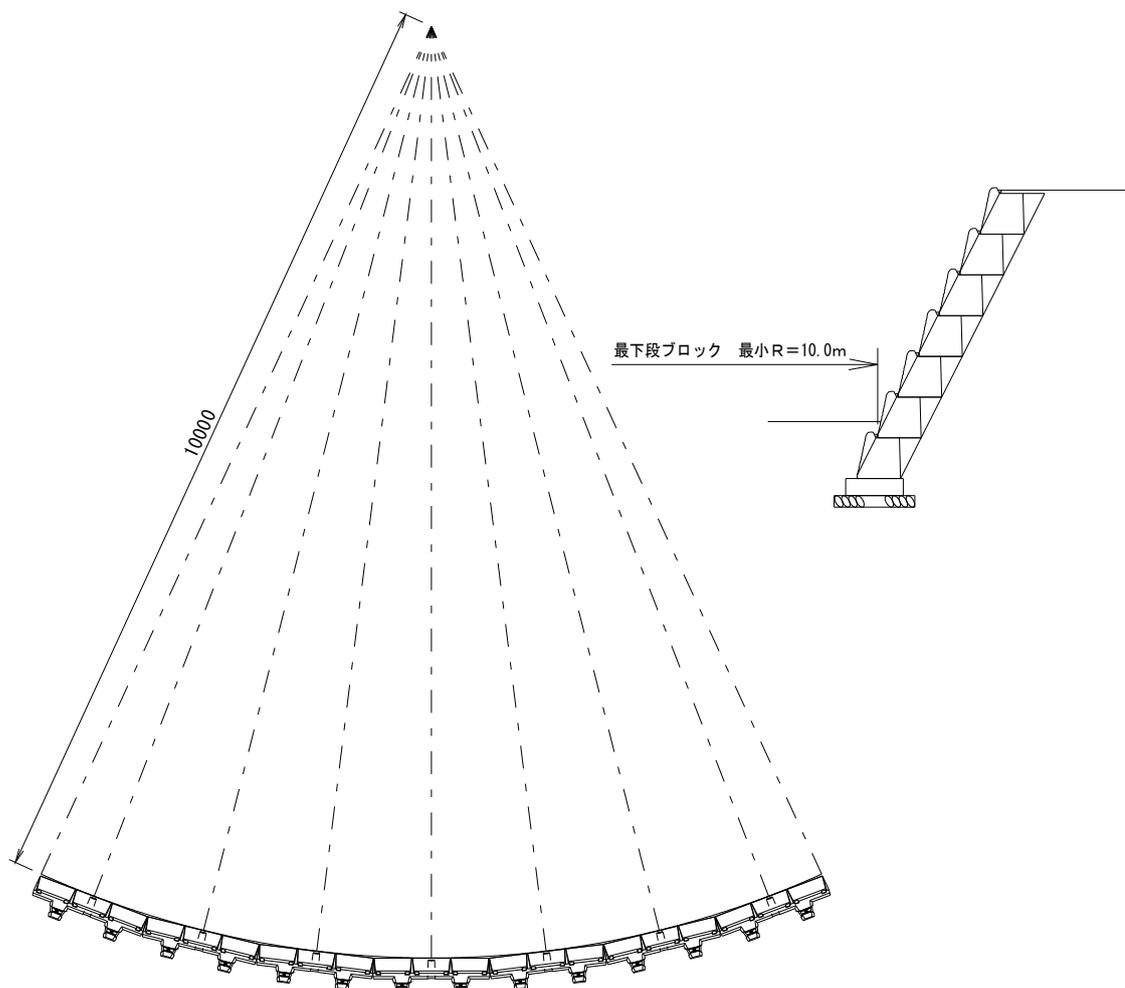
内R最小 6.0m、外R最小 10mで施工が可能です。

最端部の処理は曲線半径により処理方法が異なります。

内R

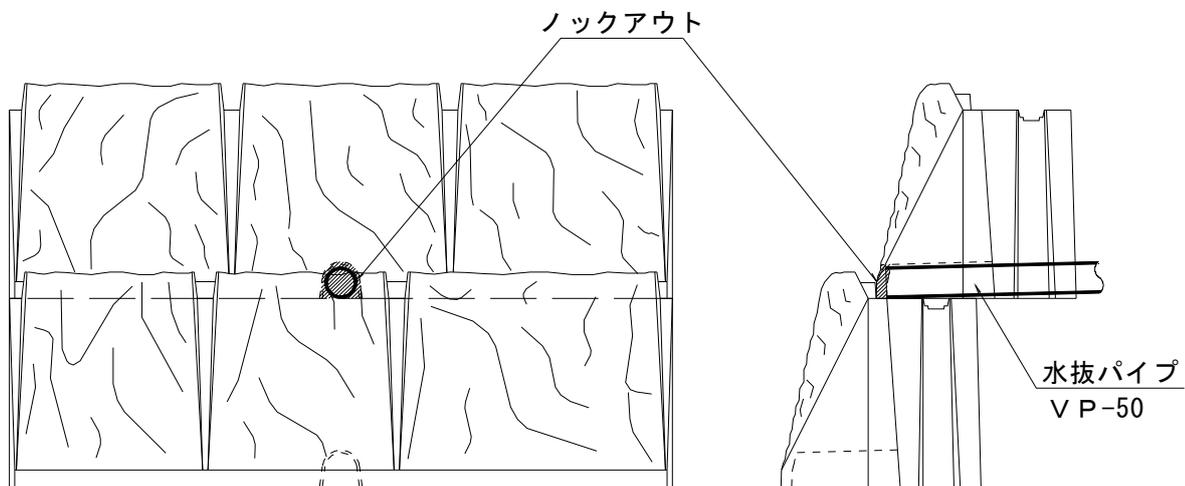


外R



IV.練積 水抜パイプ設置

斜線部ロックアウトし所定の箇所に水抜パイプを設置します。



V.魚巣タイプ施工

斜線部をロックアウトし、吸出し防止材を設置した後、胴込・裏込材を施工します。

